

取扱注意
公開不可

情報共有 (2枚 非管理用)

NISA班 ← プレス担当者

東京電力株式会社

12/1 15:30

プラント状況(本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 12 月 1 日 (木) 11:00～11:20

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 15 名 (カメラ 4 台)

当方：原子力・立地本部 [REDACTED]

原子力設備管理部 [REDACTED]

広報部 [REDACTED]

配布資料：

・福島第一原子力発電所港湾内海底土核種分析結果

[REDACTED] よりプラント状況・配布資料に関して説明。

(12月1日付 読売新聞朝刊1面「東電、東通原発を断念」に対する当社スタンスを口頭でお知らせ)

質疑：

Q. 昨晩、2号機の使用済燃料プール冷却系において、再度「流量差大」の警報が出たという事だが、水漏れの確認は終わっているのか。

A. 今朝方、現場の確認を行っており、漏えいは無かつたので計器関係の誤動作と思われる。

Q. 11月28日も同じ警報が鳴ったが、原因は判明しているのか。

A. 前回はゴミの詰まりを想定し、計装配管のフラッシングを実施し再起動したが、今回も同様の警報が発生したため、原因の調査を再度行う予定。

Q. 使用済燃料プールの温度は特に問題無いのか。

A. 冷却系の停止により、 $0.3^{\circ}\text{C}/\text{h}$ の上昇が想定されており、今朝の値は 22.7°C だったので当面は問題無いと考えている。また、外気温が低いので急激にプール水の温度が上昇する事は無いと思われる。

Q. 海底土のサンプリングについて、今回の採取点でサンプリングを行ったのは初めてか。

A. 物揚場前はこれまでにも数回サンプリングしている。初回の4月29日はセシウム134が $9.0 \times 10^4 \text{Bq}$ 、セシウム137が $8.7 \times 10^4 \text{Bq}$ 、ヨウ素131は $5.2 \times 10^4 \text{Bq}$ であった。その後、7月12日、10月4日、11月24日に採取し、 10^4 オーダーで推移しており、大きな増減は見られない。その他の採取点は今回が初めてである。

Q. 主要三核種以外について分析する予定は無いのか。

A. 主要三核種で特定できていると思っているが、5号機バースクリーン前と1号機取水口沖、取水口内中央についてはストロンチウムとプルトニウムの分析を行う準備をしている。

いと考えている。

Q. 東通原子力発電所の廃炉報道について、廃炉について社内で決定していたり、内々に自治体に伝えているという事実は無いのか。

A. そのような事実は無い。

Q. 来年度の供給計画に東通原子力発電所や福島第一原子力発電所の7, 8号機について記載されているが、今後どのように対応するのか。また、今年度も供給計画は3月に提出するのか。

A. 法律で決まっているので、3月に提出する予定。供給計画については現在見直しているところ。

Q. 港湾内海底土調査について、「⑧1～4号機取水口内南側」の濃度が高い理由は。
A. 今回の調査で比較的濃度が高い結果が出た箇所としては、「⑥1～4号機取水口内北側」や「⑦1～4号機取水口内南側」といった端の部分が挙げられる。当該箇所にはシルトフェンスがあり、流れた放射性物質がフェンスにぶつかって沈降したものと考えている。また、「①6号機バースクリーン前」も「②5号機バースクリーン前」と比較して数値が高くなっていること、こちらに同様に防波堤にぶつかった放射性物質が沈降したことによるものと考えている。

Q. 今回の結果を海洋への放射性物質の放出量の算定に用いる予定か。

A. 今回の数値は3～5月に放出したセシウムの量から見ると $1/100$ 程度であるため、総放出量の評価には寄与しないと考えている。

以上